

マルバウマノズクサ

Aristolochia contorta Bunge

ウマノズクサ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内の生育地及び個体数が極めて少なく、貴重である。(現況:R-)

形態

葉は粉白色を帯び、卵状三角形、基部は浅い心形、葉柄は1~4cmと長い。花は淡緑色で紫色を帯び、葉腋に数個集まってつく。ウマノズクサに似ているが、葉は広くて薄い。

国内分布

長野県、山形県から島根県の日本海側に点在する。

県内分布

外浦区、内浦区、中能登区。

生態など

無毛の多年生つる草である。開花期は7~8月。果実は蒴果で倒卵状球形、長さは3cm。

生育環境

草地や比較的人為的な環境に生育する。

危険要因

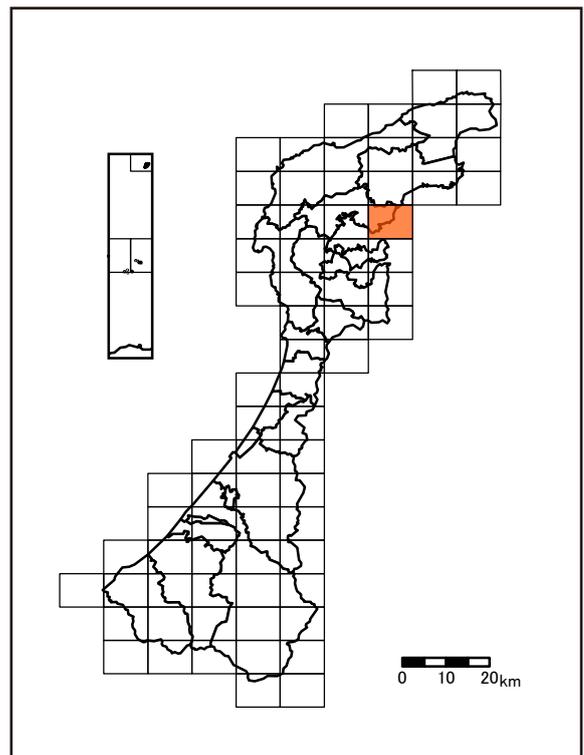
森林伐採、土地造成、道路工事、自然遷移、産地局限。

特記事項

標本にすると黒褐色に変わる。



林 二良・2004年9月29日・内浦



県内の分布